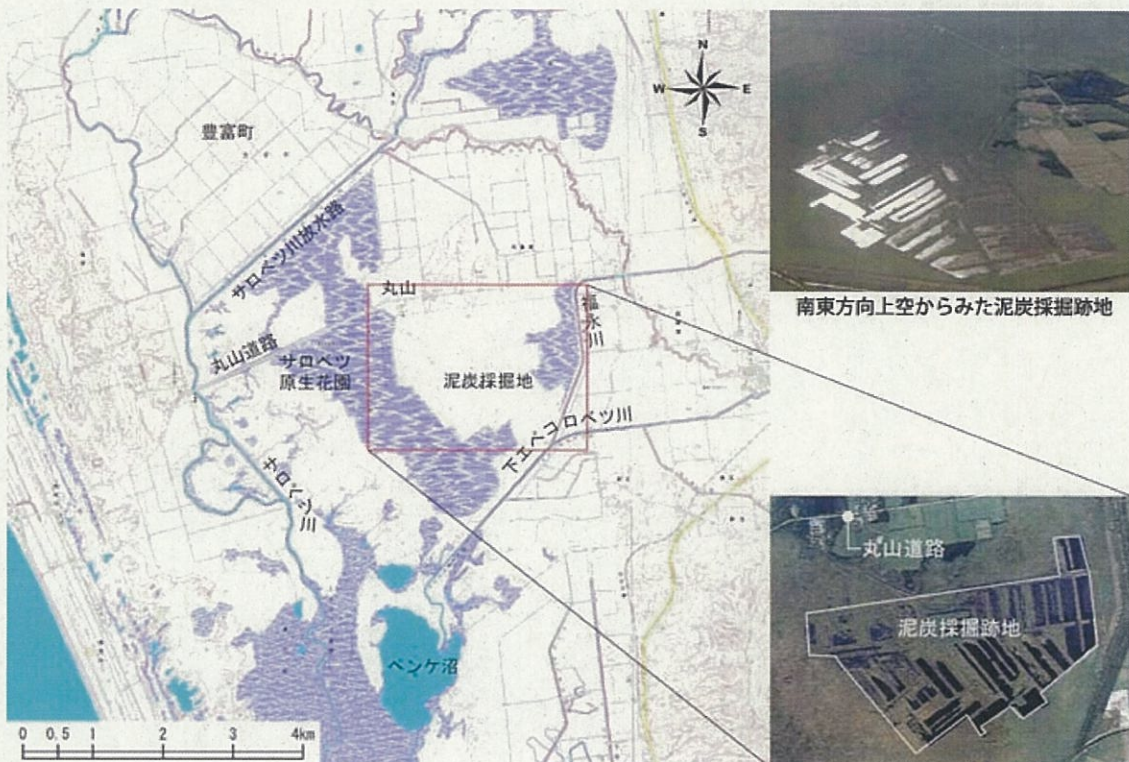


# 泥炭採掘跡地の植生回復試験について

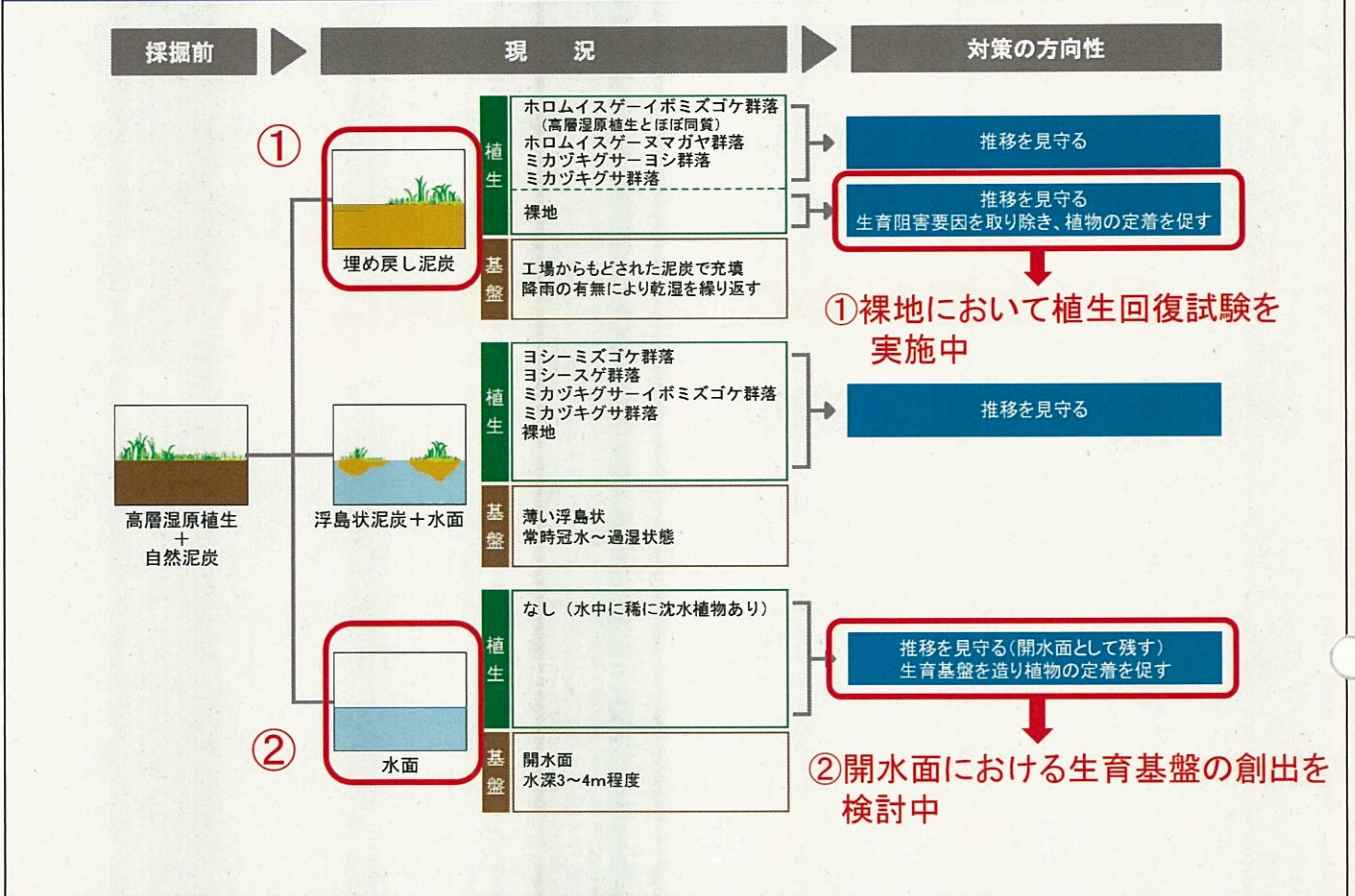
平成27年3月5日

環境省北海道地方環境事務所

## 泥炭採掘跡地の植生回復試験について



# 泥炭採掘跡地における自然再生事業の方向性



## 植生回復試験の実施位置

サロベツ湿原センター

※平成23年10月26日～10月28日に施工

植生回復試験地の設置



※衛星画像: GeoEye-1 (2010年8月22日撮影)

# 植生回復試験の概要

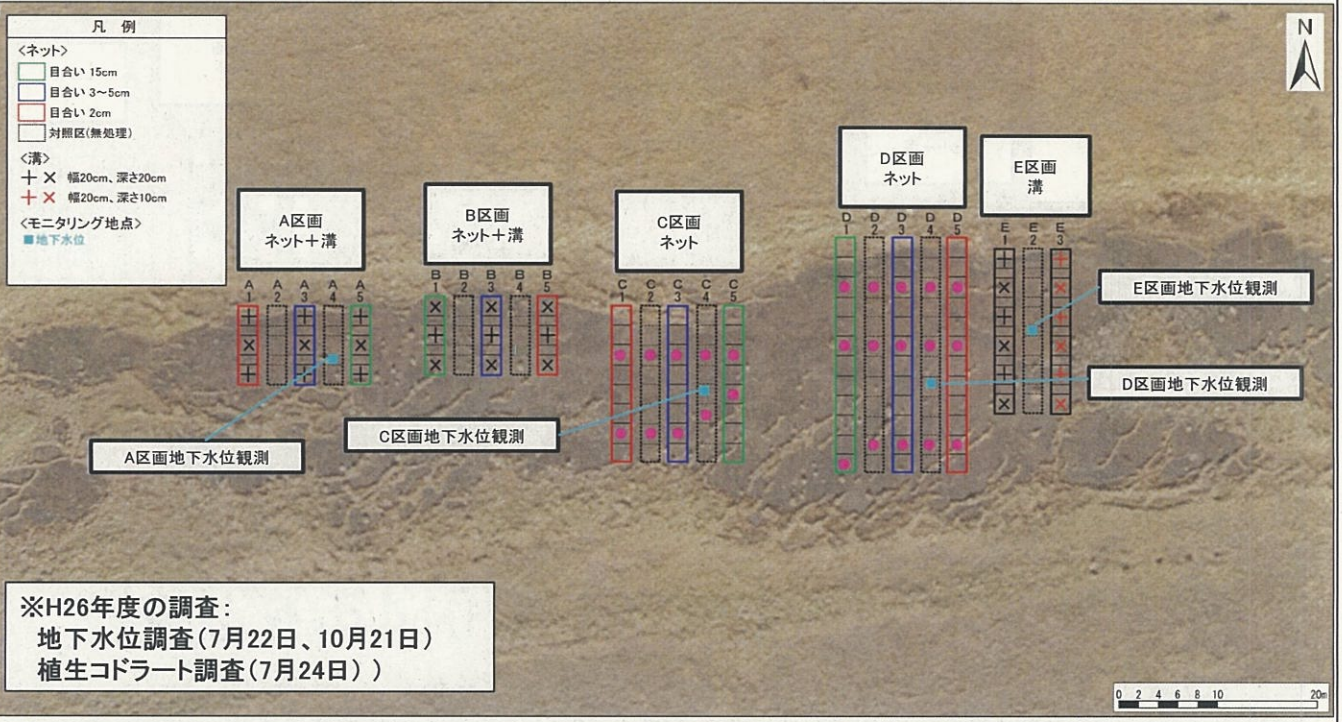
ネット種類	素材概要	施工写真	
①目合い 15cm	天然繊維ジュート 100% 生分解性		
②目合い 3~5cm	天然繊維ヤシ 100% 生分解性		
③目合い 2cm	天然繊維ジュート 100% 生分解性		

## 植生回復試験地の概要 ~ 試験地の配置

泥炭採掘跡地の裸地部では湿原植生の回復手法確立のため、種子定着や多様な水分条件の創出を意図したネットの設置、溝施工による植生回復試験区を設置した。

(A~E試験施工区 全148地点 2×2mコドラート)

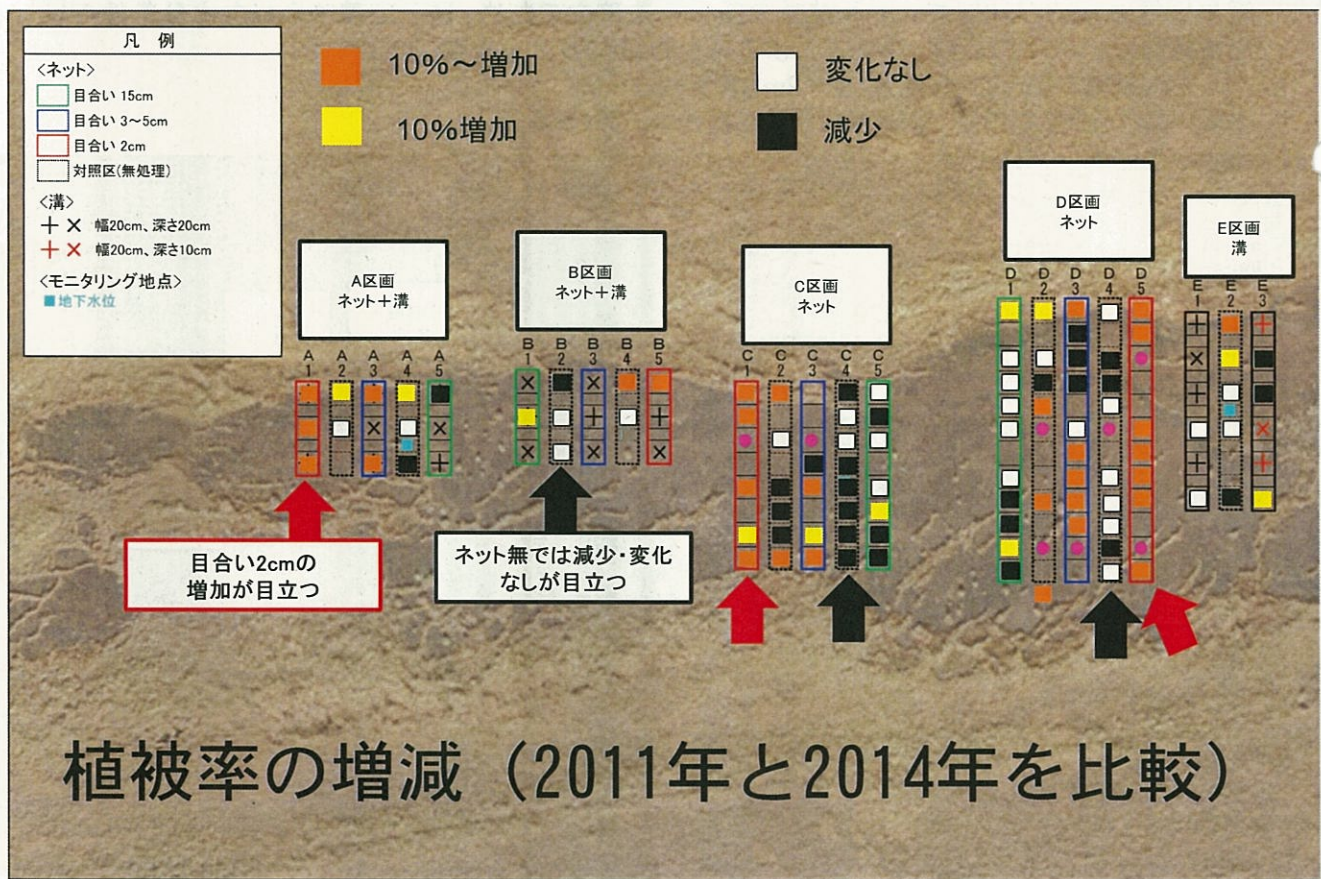
モニタリング調査の内容: 地下水位調査、植生コドラート調査



# 植生回復試験の概要 ～ 試験パターン

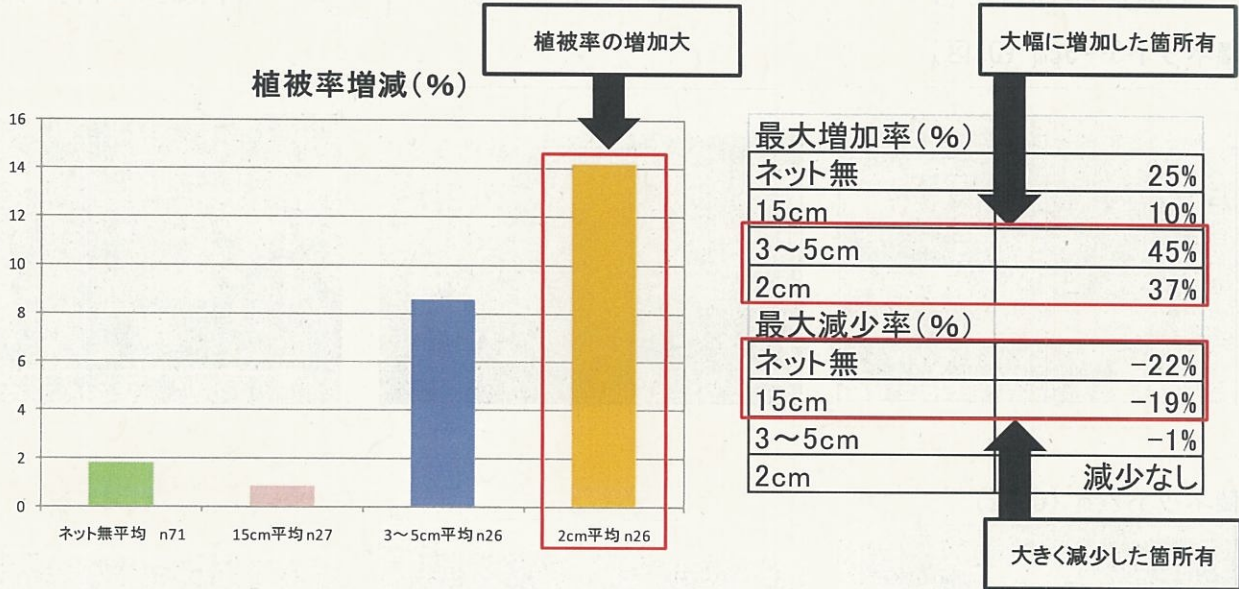
試験パターン	施工区	試験区No.	ネット:目合い			溝:深さ	
			2cm	3~5cm	15cm	20cm	10cm
ネット+溝	A	A1	●			●	
		A2(対照区)					
		A3		●		●	
		A4(対照区)					
		A5			●	●	
	B	B1			●	●	
		B2(対照区)					
		B3		●		●	
		B4(対照区)					
		B5	●			●	
ネット	C	C1	●				
		C2(対照区)					
		C3		●			
		C4			●		
		C5				●	
	D	D1			●		
		D2(対照区)					
		D3		●			
		D4(対照区)					
		D5	●				
溝	E	E1				●	
		E2(対照区)					
		E3					●

## 植生コドラート調査結果



# 植生コドラート調査結果

植被率の増減 (2011年と2014年を比較)



- ・植被率は、特に「ネット目合い2cm」のコドラートにおいて増加傾向が顕著にみられた。
- ・「ネット目合い2cm」「ネット目合い3~5cm」では、植被率の伸び幅が大きい箇所がみられた。
- ・「ネット無し」「ネット目合い15cm」では大幅に減少した箇所がみられた。
- ・「ネット目合い2cm」では減少した箇所はなかった。
- ・確認種数の変動はネットによる効果の違いは認められなかった。
- ・確認種数の平均は1~2種と少数となった。

# 植生回復試験地の変化状況

平成23年10月27日



平成25年7月20日



平成26年7月24日

■ネット無し (D4区)



■ネット15cm (D1区)



# 植生回復試験地の変化状況

平成23年10月27日



平成25年7月20日

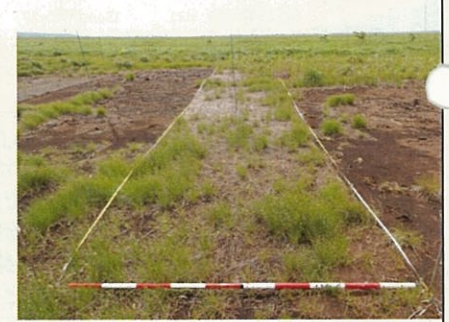


平成26年7月24日

■ ネット3~5cm (D3区)

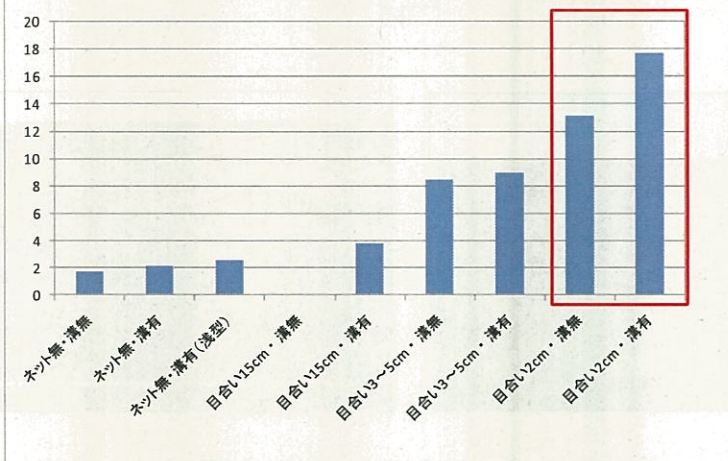


■ ネット2cm (C1区)



## 植生コドラート調査結果のまとめ

植生率増減平均(%)



2011年から2014年までの工種別平均植生率増加量



■ H24 目合い2cm (D5 16-18)



■ H26 目合い2cm (D5 16-18)

### 調査結果:

- ・「目合い2cm」の植生率の増加が最も大きく、効果が確認された。
- ・溝の有無については溝有のほうがやや植生率が大きくなった。
- ・大部分のコドラートの出現種数が1~3種と少数であった。
- ・ミカヅキグサが最も多く、その他ではホロムイソゲ、ワタスゲ、ツルコケモモ、ヌマガヤ、モウセンゴケなどの出現頻度が高かった。